



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

専門：歴史（近世史）

歴史（近世史）分野の学芸員は、主に歴史と民俗の博物館や文書館で学芸業務に携わるほか、県教育委員会の文化財・博物館課で文化財保護業務に従事します。

歴史と民俗の博物館での仕事は、展覧会の企画・立案、資料調査、学習支援など多岐にわたります。展示や資料調査では、文献資料だけでなく、刀剣・甲冑・絵画などの美術工芸品を含む多様な資料に触れることができます。一方、文書館では古文書の整理や資料編さん、公文書管理といったアーカイブズ業務を担います。大学で培った能力を活かし、古文書や歴史資料を未来へ守り伝えるという歴史研究の基盤を支える重要な仕事です。

埼玉県の学芸員として働く最大の魅力は、県全体を見渡す広い視野で仕事ができることです。地域の歴史に根ざしながらも、全国的な視点で資料調査を行い、規模の大きな展覧会を企画・開催できること、そして文化財保護を推進できることは、県の学芸員ならではの醍醐味です。また、県には近世史を専門とする学芸員が10名近く在籍しており、日常的に専門的な議論ができる仲間が身近にいることも心強い環境です。

ぜひ、近世史の知識を活かし、博物館や文書館で歴史を未来へつなぐ仕事に挑戦してほしいと思います。



展示解説



調査風景



文書館 展示風景

専門：歴史（近現代史）

歴史（近現代史）分野の学芸員は、主に歴史と民俗の博物館や文書館、県教育委員会の文化財・博物館課などに勤務します。

博物館、文書館では、近現代のテーマを中心に常設展示や特別展、企画展を担当します。博物館では他の分野の展示にも関わることができ、紙資料以外の資料も対象とします。

展示のほか、資料整理も主な仕事です。文書館が収集する地域資料には、膨大な近代の文書が含まれています。博物館では文書以外の近現代資料も調査、収集しています。

文化財・博物館課では県内の指定文化財に関する業務などがあります。近年は近代化遺産など新しい時代の文化財が指定される等、保存・活用の対象となることも多く、活躍の場があります。

さらに、近現代史担当が特に必要とされる仕事として、文書館に保管されている県の行政文書の保存・管理があります。様々な媒体を含む近代文書の取扱いのほか、県の行政史、文書管理などを学び、文書の修復やデジタル化といった現代的な課題、現代の文書の保存、公開にも取り組みます。これらは「アーキビスト」の仕事であり、博物館の学芸員のイメージとはかなり異なる内容ですが、近現代史の専門性を大きく発揮することができます。

いずれの職場においても、他の時代、分野、職種の方と関わりながら様々なスキルアップができます。ともに働くことができるのを楽しみにしています。



歴史と民俗の博物館常設展示室9室（近現代）



調査



重要文化財「埼玉県行政文書」

専門：地質学

地質学分野の学芸員は、埼玉県地質や岩石に関連する展示の企画・運営、調査研究、標本の収集・保存管理、教育普及活動などを担当します。主な配属先は自然の博物館であり、県教育委員会の文化財・博物館課にて天然記念物の指定や管理、博物館行政全般に携わることもあります。

長瀬町にある自然の博物館の常設展示は、ほぼ全て埼玉県産の実物標本で成り立つ埼玉県に特化した内容で構成されています。これは、当該館が前身の博物館を含め100年以上の歴史をもち、長年にわたる標本と地質情報の蓄積があるためです。博物館がある秩父地域は「日本地質学発祥の地」といわれ、現在も多くの大学が地質巡検を行い、また日本ジオパークにも認定される地質学的にも魅力的な場所です。

また、実物標本を保存しデータベースを蓄積する機能は、大学や研究機関にはない博物館独自の重要な役割です。埼玉県の学芸員は、様々な研究者と連携しつつ、埼玉県の地質情報を体系的に蓄積していく、やりがいのある仕事です。加えて子どもや観光客など普段地質学に触れにくい方々に、展示や普及活動で地質学の面白さをわかりやすく伝えることも大切な役割です。

他分野の学芸員ともお互いの専門分野を生かし、助け合いながら仕事をしており、チームワークの良さには自信があります。岩石の観察やフィールドワークが大好きな方、大歓迎です。一緒に埼玉県の地質学の魅力を発信していきましょう。

<自然の博物館の様子>



資料整理



特別展での展示解説



自然観察会